



Pure 純 No.184 Pacific パ Mar.2016

純パの会会報『純パ』第184号

2016年3月19日発行／発行：純パの会

快晴の川崎を、歩いて、歩いて、とことん探訪！

～『第3回パ・リーグ歴史探訪

日本ハム球団多摩川グラウンド跡地&川崎球場跡地巡り～』のご報告～

岩河 正剛(東京都福生市) ※写真撮影:岩河正剛・蜷川明男・塚原隆・影山一義

はじめに

純パの会のレギュラーイベントとして定着した「パ・リーグ歴史散歩」。その第3回目となる今回から名称を「パ・リーグ歴史探訪」と変更し、2月13日(土曜日)、終日天気に恵まれたなかで開催しました。

今回探訪する場所は神奈川県川崎市。かつてこの地にあったパ・リーグに縁のある2つの場所をフォーカスしました。一つは、多摩川の河川敷に長い間存在したファイターズの練習グラウンドだった「日本ハム球団多摩川グラウンド」。もう一つは、みなさんおなじみの、悲喜こもごもの伝説や逸話がカオス状態だった「川崎球場」。ここは昨年探訪する場所として候補にあげていましたが、その時は東京の跡地(東京スタジアム、駒澤野球場)を巡る内容で決めたため、川崎が今回となりました。

開催はいつものように純パの会の会報、ホームページ、Twitter、Facebookなどで告知。おかげさまで過去の2回とも好評という事もあって参加希望の方が続々と増え、当日は首都圏以外にも東海地方や近畿地方の会員の方々も集結。その中には第1回目の時に駒澤球場跡地を特別にガイドしていただいた天野偵さんの姿も(中川克己さんありがとうございます)。「第3回パ・リーグ歴史探訪」のスタート地点(集合場所=東急電鉄多摩川駅)には結果的に過去最高となる16名の参加者が集いました。

さあ、これから川崎の歴史探訪へいざ出発！



●歴史探訪の参加者が集合。

1. 参加者全員で“一級河川の橋渡し！”

多摩川駅の隣にある多摩川園の跡地(ちなみにここは、過去に東映フライヤーズの大川博オーナーが本拠地球場建設を考えていた場所です!)を左に見ながら丸子橋方面へ向かい、まずは最初のポイントである橋のたもとに立っているイラスト入りの周辺案内図の前に。この案内図は30年以上前から立っている古いものであり、よく見ると「日本ハムグラウンド」や「巨人軍グラウンド」の文字やイラストがそのままの状態に残っているので、今では多摩川グラウンドの存在を証明する貴重な役割をしています。それを見学後、多摩川に架かる丸子橋へ(ちなみに「パ・リーグ歴史探訪」のコースで一級河川に架かる橋を渡るのはこれが初めて!)



●丸子橋の大田区側にある案内図。巨人軍グラウンドと、対岸の日本ハムグラウンドが描かれている。



対岸の川崎市に到着後、多摩川の土手の遊歩道を通って多摩川グラウンドの跡地が目に見える場所へ到着。そこにはちょうど護岸のように残っている多摩川スピードウェイのスタンドの跡があります。この多摩川スピードウェイとは、日本初のスタンド設置型のモーターレース場。現在国内には鈴鹿サーキットや富士スピードウェイなど様々なメインレース場がありますが、それらのルーツがこの多摩川スピードウェイになります。つまりここはモーターレース発祥の地でもあるのです。

その場所から多摩川グラウンド方面を一通り眺めた後、現地へ向かいました。さあ、ここから多摩川グラウンド跡地の探訪です。



●多摩川スピードウェイのスタンド跡



2. 日本ハム球団多摩川グラウンド跡地探訪



日本ハム球団多摩川グラウンド(注：これが多摩川グラウンドの正式名称)は、1961年の東映フライヤーズの時代から使用していたグラウンドです(この場所の選定には、当時の水原茂監督の意向があったそうです)。その後、フライヤーズ、ファイターズと長年継続して、現在の鎌ヶ谷へ移転する前年の1996年まで使用していました。鎌ヶ谷移転後は、グラウンドは球団所有の状態です。主に近辺のアマチュア野球のチームが使用していました。それも2011年3月いっばいで国に返還(後に川崎市が所有権を取得)。その後は徐々に解体、整地され、2015年に新たな硬式野球場(正式名称は「川崎市多摩川丸子橋硬式野球場」)として当時とほぼ同じ位置にオープンしました。このように現在はすべて新しく作りかえた野球場なので、実際に見るのは昔の多摩川グラウンドではないのですが、それでもグラウンドの向きが当時とほぼ同じなので、当時の雰囲気を感じながらの探訪となりました。

まずはグラウンドのライト後方のネットの位置から一塁側方面に向かいました。参加者が特に気になったのがこのグラウンドでの着替え場所やトイレの事。河川敷という場所柄それが気になりますが、当時はそんなものはありませんでした(ベンチ裏に仮設の囲いをたててその中で着替えていた)。それを知り驚く参加者多し(プロが練習するグラウンドとしては今ではとても考えられないです!)。また、多摩川グラウンドといえば有名な、外野方面の後方を入っている東急電鉄の鉄橋。当時は電車がその鉄橋を通る時かなりの大音量だったので、試合中はそのたび中断していましたが、現在の鉄橋はほとんど音が響かない新しいものになっているので、現地にも音はほとんど気になりませんでした。そんな鉄橋をグラウンド越しに見る参加者。そうそう、この多摩川グラウンドは、鉄橋を通る電車をバックにして写真を撮るのがベスト! です。

グラウンドではもちろん天野さんにもたくさんのお話をうかがいましたが、その中で印象に残った事を二つ。一つは一塁側ベンチ後方に立っていた白字で「日本ハム球団多摩川グ



●写真上：日本ハム多摩川グラウンド跡地のパノラマ
写真下：現在は「多摩川丸子橋硬式野球場」として利用されている。

日本ハム多摩川グランド跡地探訪

●川崎側の土手からグランドを眺める



●東急線のガードをくぐって、グランド到着



●外野沿いにグランドを歩く



●当時の写真などをもとに、天野さんが多摩川グランドの説明をされました。



●1塁側にまわって、グランドを眺める。
※当日は少年野球のチームが使用していました

ランド」と書かれていた看板の件。あの文字はご自身が書かれたそうです。昨年駒澤球場を訪れた時にも、球場の看板や試合告知板をすべてご自身が作成されていた事をお聞きしましたが、多摩川グラウンドでも書かれていました。またもう一つは、一塁側とライト側の間の後方に生えている大きな木。その木はご本人が植えたとの事です。その木がしっかりと根付いてこの場所に健在です。グラウンドは新しくなりましたが、この場所に天野さんの足跡が確実に残っていてくれているを見て、とてもほっとした気持ちになりました。

最後にグラウンドをバックにして全員で記念撮影し、多摩川グラウンドを後にしました。

●天野さんが植えた樹木は、今も残っている



3. 勇翔寮跡地、そして縁の店へ

多摩川グラウンドを後にして、今度は多摩川時代にファイターズの選手たちの寮だった「勇翔寮」の跡地へ。多摩川に沿った道を西に向かって歩き、そこから左へ曲がった等々力緑地へ向かう道をずっと進み、等々力陸上競技場のバックスタンドとアウェイ側ゴール裏スタンド間の位置まで来て、その裏の道路を隔てた場所がその跡地です。現在はまったく別のマンションが建っていますが、この場所に歴代のファイターズ戦士たちが一つ屋根の下で生活していた選手寮がありました。

●「勇翔寮」の跡地は高級マンションに



その後は、昼食場所であるこれまた縁のある「萬福飯店」へ。ここは多摩川時代に長年に渡って選手はもちろん、監督、コーチ、関係者なども頻繁に利用していたおなじみのお店で

●「萬福飯店」



●「萬福飯店」にて中川さんと天野さんが並んで食事



す。特筆すべきは1981年のリーグ優勝の時。ここで球団関係者が集まり優勝のお祝いをしたそうです。そんな地元に着していたファイターズが移転して今年で20年目。それでも当時選手や関係者だった人たちが今でも訪れる事があるといいます。

さて。お店は前もって予約していたものの、店内が小さいので(しかも昼時でもあるので)10名入店が限界。しかし、今回はそれを上回る16名参加のため、参加者を約半分に分けて入りました(萬福飯店以外の方は「三ちゃん食堂」へ)。ちなみに天野さんはこの萬福飯店は昔からの常連で、お店の人たちも久々の再開に大変な喜びようでした。そして注文したメニューは、「いつもの!」。つまり、お店では毎回同じ物を注文していたので、「いつもの!」で通じていました(ちなみに「いつもの!」とは、野菜炒め定食でした)。食事中はお店の人から、大沢親分がよく注文していたという親分ラーメンの話や、(本物の)斎藤佑樹や有原航平のサインを見せてもらったりして過ごしました。萬福飯店の皆さま、忙しいお昼時の席確保、本当にありがとうございました。

萬福飯店を後にして、三ちゃん食堂の組(ちなみにこちらの組は昼間から酒盛りモード……)と合流。天野さんとはここでお別れしました。天野さん、今回は多摩川駅~多摩川グラウンド跡地~勇翔寮跡地~萬福飯店と、かなり長い距離を歩かせてしまい申し訳ありませんでした。そして今回も貴重なお話をありがとうございました。参加者一同感謝致します。

4. 武蔵小杉駅~川崎駅~川崎球場跡地へ

武蔵小杉駅から南武線に乗り、次の目的地である川崎駅へ。川崎駅到着後は集合場所である川崎駅のコンコースの真ん中にある時計台に集合。ここで川崎球場跡地のパートからの参加者が4名(酒巻明夫さん、永田嘉和さん、塚本由美さん、小川裕司さん)合流。ここからは過去最高となる総勢19名!で川崎球場跡地に向かいました。これだけの参加者ですから、現地までの道中の隊列はかなり長いものになりました(現地の人たちは、こんな我々をどんな目でみていたのでしょうか?)。現地到着後、バイクで来ていた高橋豊さんが合流して、ついに参加者は20名という大人数に!

到着後、約束していた富士通スタジアム川崎の管理事務所へ行きあいさつ。ここからは川崎球場跡地の探訪です。

到着後、約束していた富士通スタジアム川崎の管理事務所へ行きあいさつ。ここからは川崎球場跡地の探訪です。

●土岐さんは川崎駅での待ち合わせ中にユニフォームを早着替え。



●武蔵小杉駅へ向う参加者の列



川崎駅から川崎球場へ。
昔通った道のりを、久しぶりに歩きます。



●国道132号から眺めた富士通スタジアム川崎に残る、川崎球場時代の照明灯

5. アメフト球技場をサッカー関係者がガイドする野球場跡地巡り!?

川崎球場は1952年に開場。当初は社会人野球や高校野球の試合で使用されていましたが、1954年から2年間は高橋ユニオンズがフランチャイズとして使用。そして1955年からは大洋ホエールズがフランチャイズとして長らく使用し、そのホエールズが横浜に移転後の1978年からはロッテ



●富士通スタジアム川崎の外観

オリオンズのフランチャイズとなりました。オリオンズが使用するようになってからは、さまざまな川崎球場ながらの悲喜こもごものドラマや逸話があったのはご存知の通り。張本勲の3,000本安打、有藤道世の2,000本安打、落合博満の2年連続3度の三冠王などの栄光の舞台にもなり、伝説となった「10.19」を経て、1991年で本拠地としての役目を終えました。その後は主にアマチュア野球で使用されていましたが、2000年3月に行われたベイスターズ vs. マリーンズのオープン戦を最後に野球場の役目を終えました。その後は徐々にアメリカンフットボール専用球技場に改修され、現在の正式名は「川崎富士見球技場」、ネーミング・ライツにより「富士通スタジアム川崎」が名称となっています。つまり川崎球場の跡地というのは、現在の富士通スタジアム川崎の事です。

この富士通スタジアム川崎は、2015年4月1日からは、東急コミュニティーと地元のJリーグクラブの川崎フロンターレの2社が指定管理者となっています。そのため、川崎球場跡地のガイドは、フロンターレの方にしていただくかたちとなりました。その担当をしてもらったのがスタッフの佐藤弘平さん(現在25歳)。あの「10.19」の時にはまだ生まれていなかった方です。つまり「10.19」を見ていないサッカークラブの人が野球場跡地のガイド……「なんでJリーグの人が野球場跡地のガイドを?」と思われた参加者も多かったでしょう。しかし、この方、(以下に述べる通り)完璧なガイドでした!



●当日のガイド役を務めた
佐藤弘平さん

●当時の写真を使いながらの説明を熱心に聞く参加者たち

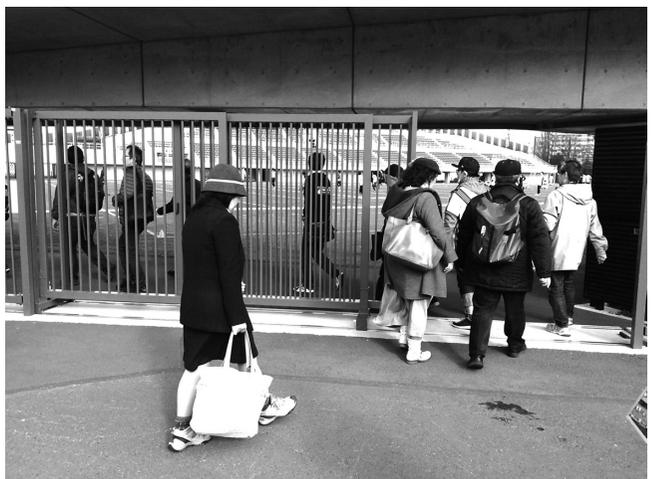


6. 川崎球場跡地探訪

ガイドは佐藤さんが用意したたくさんの当時の写真を使いながら、当時と現在の比較、というような方法で進行しました。まずは、当時の一塁側スタンドのあたりからスタート。現在でも当時の照明塔(3基)、室内練習場、様々な小さな門などが当時のまま残っていました。特に一塁側の場外にあった名物のラーメン屋があった場所を説明された時は、ほとんどの参加者が歓声をあげました(みんなこのラーメン屋をよく知っています!)。しかし、ラーメン屋の跡地を見て歓声をあげるなんて……。こんなことがあるのは、川崎球場の跡地だけでしょう(笑)。その後はスタジアムのフィールド内に入場。ここから現在のフィールド内に残る川崎球場の遺構の見学となりました。まずは当時のバックネット裏の前のフィールドに。ちょうど小さくカーブを描いたフェンスに当時の面影があります(思わずマズプロアンテナの広告を思い出してしまいました!)。その後は(富士通スタジアム川崎の)メインスタンドの下を通り、当時の外野のフィールドだった場所へ。



●かつての名物、ラーメン店のあった辺りで



●いよいよフィールド内に入ります!

川崎球場跡地探訪



●フィールド内に入って、外野方向を眺める



●ホームベースがあった位置の後方にて



●バックネット裏の跡地



●「10.19」時にファンが殺到したマンションを紹介する新聞記事の説明を聞きながら、フィールドからそのマンションを眺める





●今も残る外野のフェンス。
広告の文字もうっすら見えます



●当時の新聞記事をもとに、1977年にタイガース・佐野仙好選手が右中間の打球を追って頭から激突したアクシデントを再現する(?)土岐さん



●スコアボード下の開閉式のフェンスを通り抜けて、
今も残る照明灯を眺める

ここには当時の遺構が、ほぼそのまま残っています。外野フェンス、フェンス上の金網、バックスクリーン……まさにマニアが見たら感極まって涙してしまうような遺構があるわあるわ！ そのフェンスをよく見ると、当時書かれていた広告を消した跡がはっきりわかります(だから広告の文字がなんとなく読めます)。外野フェンスといえば1977年にタイガースの佐野仙好選手が右中間の打球を追って頭から激突したアクシデントがありましたが、その位置も当時の写真と現在の場所を見比べてははっきりとわかりました(土岐くん??)。その時救急車がフィールド内に入ったのですが、その時出入りした門も当時のまま残っていました。フィールド内では次々と当時の遺構を目にする事が出来て、参加者はみな興奮の連続でした！

その後は、その(救急車が出入りした)門から出て球場周辺へ。まずは近くのバス停留所へ。このバス停の名前が「野球場裏」。つまりこのバス停は川崎球場時代から名前が変わっていませんでした！その後はライトスタンド裏の道へ。現在は当時のライトスタンド側に遊歩道が出来ていますが、当時は道路ギリギリまでスタンドの壁面が迫っていました、それを当時の写真と見比べながら見学。さらにその道に面している「例のマンション」。あの「10.19」の時に、屋上から非常階段まで球場に入場出来なかった人たちが溢れていたあのマンションです。このマンションがまだ健在でしたので、その入り口前に立って参加者一堂でじっくり眺めました(さきほどの勇翔寮跡地のマンションといい、今回はなぜか“よそ様”のマンションをまじまじと眺める事が続きます)。その後は当時の一塁側内野席後方の球場周辺を。そこで特に気になったのは各場所に設置されている看板だったもの。よく見ると、元々書かれていた「川崎球場」の文字が上から白く塗りつぶされています。その理由を聞くと、川崎市が川崎球場の事をネガティブに考えているらしく、川崎球場を黒歴史に、つまり川崎市の歴史の中から「川崎球場というのはなかった事に」しようと考えているからだそうです(とても残念です……)。このように看板はことごとく塗りつぶされていますが、駐車場前の国道132号線の信号の下には「川崎球場」の文字が。こちら



●「野球場裏」バス停



●当時の球場外周の写真を示しながら。外野沿いの道路は球場解体後に拡張された

●今も残る「川崎球場」表示の信号





●「川崎球場」での最後の試合を記念して建てられた時計塔



は警察の管轄なため、このままなのだそうです。

以上で川崎球場跡地巡りは終了して、その後は事務所の資料展示室に入って我々のために用意してくれた数々の川崎球場に関する資料、文献、写真、記念碑、ユニフォームなどを参加者全員で拝見する事に。当然ながら参加者は興奮、興奮、また興奮!! その後再度フィールドに入れてもらい、外野フェンス前で参加者全員で記念撮影。最後は再び資料展示室の前まで戻り、これで川崎球場跡地巡りの行程は終了。今日の川崎球場跡地は、跡地巡りとしては本当にフルコース! 大満足な内容でした。参加者の方々もお腹がいっぱいになったと思います。

川崎球場は確かに貧弱&脆弱で老朽化が激しく、とても居心地の良い球場ではありませんでした。しかし、そんな球場でもなくなってしまふのは寂しいものです。その遺構がこれだけ残っている(残していただいている)事を実際に見ることが出来て本当に嬉しかったです。



●富士通スタジアム川崎の事務所内にある記念ギャラリーを参加者が見学



長い時間ガイドをしていただきました佐藤弘平さん。川崎球場に対してはそれぞれ一家言ある我々に対しても、丁寧で大変わかりやすいガイドをしていただきまして本当にありがとうございました。参加者一同心から感謝致します。

7. リリース神田スタジアムへ

川崎球場跡地を後にして、最後の懇親会会場であるリリース神田スタジアムへ。川崎駅からは30分程で到着して店内へ。そして懇親会は17名で乾杯！その後まもなくしてノンフィクションライターの長谷川晶一さん(お仕事お疲れ様でした!)も合流して、総勢18名で再度乾杯!!



参加者の皆さん、今日は川崎市内を本当に歩いて、歩いて、歩きました!(今日の歩数が23,000歩以上だった、という人も!)。大変お疲れさまでした。充実した跡地巡りと身体の疲労で、最初一杯は格別の味だったでしょう!

その後はいつものように参加者同士で様々な野球談義に遅くまで花が咲き、「第3回パ・リーグ歴史探訪」は最後まで充実し、大団円のまま無事終了となりました。

おわりに

今回の歴史探訪を振り返ってみると、多摩川グラウンド跡地では、多摩川スピードウェイのスタンド跡というモーターレースの歴史に触れ、川崎球場跡地では、「現在のアメリカンフットボール球技場に残る遺構をサッカー関係者にガイドしてもらおう」という、野球場跡地巡りのイベントでありながら、各パートで様々な他のスポーツに関わるという、考えようによってはなんとも不思議? な行程でした(こんな不思議なツアーとなったのも、川崎という独特な土地柄だからなのでしょう?)。

そんな川崎ですが、多摩川スピードウェイのスタンド跡には、今後現地に説明板を設置する予定がある、という情報を知りましたし、川崎球場跡では、このように川崎フロンターレの方が過去(野球)の遺構をしっかりと守り、現在(アメフト)の隆盛のために環境を整え、そして未来に向けたスポーツ遺産の伝承やスポーツの文化を発展させる役割を果たしています。最近になって各地でスポーツの文化遺産を後世に伝えていく取り組みが目立ち始めましたが、それを積極的に行っている川崎フロンターレに方々にはあらためて感銘致しました。

また、今回も本当に様々なかたちでこのイベントにご協力をいただきました。天野慎さん、

萬福飯店の方、そして川崎フロンターレの方々。皆さまのおかげでとても満足度の高い内容になりました。ありがとうございます。そして、またまたこの日の天気です。終日好天でした！過去2回も天気には恵まれましたがこの日も同じく、いや、それ以上に天気に恵まれました。本当に天には毎度ながら感謝！感謝！です。

「パ・リーグ歴史探訪」は今回も盛況でありましたので、今後もこのイベントは継続していく予定です。次回をお楽しみに！

「第3回パ・リーグ歴史探訪

～日本ハム球団多摩川グランド跡地&川崎球場跡地巡り～参加者(敬称略・順不同)

<純パの会・会員>

(日本ハム球団多摩川グランド跡地&川崎球場跡地)

塚原隆、神田裕子、影山一義、田中尚、松場重樹、山下威、稲葉敦雄、寒河江健、土岐英一郎、佐藤喜男、明石玲子、蜷川明男、中川克己、岩河正剛

(川崎球場跡地のみ) 酒巻明夫、永田嘉和、塚本由美、小川裕司、高橋豊

<会員以外>

中村紀子(田中尚さんの知人)

<ご協力いただいた方>

- ・天野慎(元東映フライヤーズ球団職員)
- ・萬福飯店
- ・川崎フロンターレ



●今も残る川崎球場のフェンスの前で記念撮影